



## 私のふるさと

足立 勝洋

『私のふるさと』のお題を頂戴しました。これ実は、いつも困り気味です。というのは、私には故郷と呼べるようなところがあるのだろうか、いつも思うのです。社会人になる前の長期間、東京の中野区に住んでいました。中野は当時まだ少しは田舎びていましたが、でもやはり東京、変哲もない街なかでした。大手を振って、これが故郷デスと語れるような挿話もなさそうです。

小学校2年以前くらいにさかのぼると、私たちは、あの志村けんさんで有名になった東京都下、東村山に住んでいました。こちらは十分に田園でした。でも私自身が小さかったので、ほとんど覚えがなく、挿話的に思い出すのは、三つだけです。一つは、級友の家が農家で、家の2階でカイコを飼っていて、クワの葉を音を立てて食べていたこと。二つは、裏山を歩いていくと、村山遊園地まで行け、そこのシイの実を採って食べたこと。三つに、母親に連れられて、所沢まで行ったのだが、何をしに行ったのか後で尋ねると、農家に行って自分の着物と食べるものを交換してもらったのだと。そういう時代でした。

さて、これでは話にならないので、最後までさかのぼらせて頂きます。すなわち、もう生誕地までさかのぼります。

四国は愛媛県です。ここでは、2、3歳くらいまでいたらしいのですが、何も覚えていません。でも、父親に聞くと、そこは、宇和島から東にミカン畑をずっと通り過ぎて行ったところ、川がそばを流れていたなど。それで、生家だと見せてくれたのは、特徴的な木が家の前に生えていた写真です。

社会人20年を過ぎた頃、思い立って自分誕生の地に行ってみたくなりました。現地の情報を古くはあるが、父親から仕入れ、いざ出発。

当時住んでいた和歌山県橋本市から、凝っていたバイクでのツーリング旅行です。どういう経路だったか忘れましたが、フェリーに乗り継いで四国上陸。

(高知、桂浜にて)

道を尋ねながらツーリングを進めていると、お国の人の何と穏やかで親切なと、うれしくなります。そして、その村に入りました。しばらく、あちこち見て回ると、何か見覚えのあるような。



そして、アッと声をあげそうになりました。何と、あの父親の写真で見た木が植わっているではありませんか。これだこれだ間違

いない、それにしてもびっくり。前の道は舗装に変わっていましたが、まさに生家がそこにありました。そして、村の人たちが、あ、あの足立の息子さんがといて、仕事の手を休めて集まって下さったのも、感激でした。

それから、兄が通ったという小学校を見たり、そばに川が流れているのも確認したりしました。

この川は四万十川の支流です。幼い頃の夢枕に潜在意識でよく出てきたのは、川ではなく道端の溝のようなものでしたが、もっと大きく、この辺りの人がよくウナギを捕っていたというのもうなずけます。



この物語も、どんな展開があるかと思っていましたが、自分のフルサト探りの話ができました。ちょうど時間となりました。